

アニマルセンター一年報 第34号

福岡歯科大学 アニマルセンター

2016



2016 ANIMAL CENTER ANNUAL REPORT Vol. 34
FUKUOKA DENTAL COLLEGE

目 次

アニマルセンター年報(第34号)表紙

年 報 目 次

はじめに	アニマルセンター長 日高 真純	1
平成28年度アニマルセンター使用者講習会について		2
平成27年度実験動物慰霊祭の様相		3

平成27年度 アニマルセンター利用状況

1. 平成27年度 利用者数		
1-1. 講座・月別利用者数(SPF室を含む)		4
1-2. 年間講座別延利用者数		
1-3. 過去5年間の講座別延利用者数		5
1-4. SPF室講座・月別延利用者数		6
1-5. 過去5年間のSPF室講座別延利用者数		
2. 平成27年度 動物導入数		
2-1. 動物・月別導入数(SPF室を含む)		7
2-2. 過去5年間の動物別延導入数		
2-3. 分野別・月別動物延導入数(SPF室を含む)		8
3. 平成27年度 動物飼育数		
3-1. 分野別・月別動物延飼育数		10
3-2. SPF室分野別・月別動物延飼育数		11
3-3. 過去5年間の動物別延飼育数		12
3-4. アニマルセンターで飼育した動物の系統		13
3-5. 分野別・月別動物使用数(SPF室を含む)		14

平成27年度 動物実験計画審査

平成27年度動物実験計画審査件数	16
(内訳)倫理基準によるカテゴリー分類別動物実験承認件数	
過去5年間の動物実験承認件数	17

平成27年度 使用者講習会

平成27年度使用者講習会の実施状況	18
過去5年間の使用者講習会の受講者数	20

平成27年度 アニマルセンターを利用した研究業績

動物を使用した過去5年間の年度別研究業績	21
平成27年度動物を使用した研究業績	23

平成27年度 アニマルセンターおよび委員会の活動状況と資料

アニマルセンター一年表(平成27年度)	27
会議録(管理運営委員会・動物実験委員会・使用者会議)	29
平成27年度月別光熱水使用量	35
過去5年間の光熱水使用量の推移	
福岡歯科大学・福岡医療短期大学動物実験規則	36
動物実験およびアニマルセンター使用に必要な手続きの概略図	43
委員・職員の構成(センター管理職員・管理運営委員会・動物実験委員会)	45
編集後記	47

はじめに

アニマルセンター長 日高 真純

福岡歯科大学アニマルセンターの年報34号(2016年)をお届けいたします。

センター長に就任いたしまして4年目を迎えました。今年度は5月まで補助職員としてご尽力いただいた吉廣絹代さんに代わり、栗山亜矢子さんを新たにお迎えしました。センター副長の泉利雄准教授(歯科保存学分野)、事務の職員の和才広輝係長、センター技能職員の山下貴成さん、事務補佐の松本富子さん、補助職員の高橋章子さん、坂本知加子さん、栗山亜矢子さん、さらに技術職員の林憲久さんには前年度から継続して勤務頂いています。この新たな協力体制のもと、アニマルセンターの管理運営に取り組んでおります。皆様方におかれましては、お気づきの点がありましたら遠慮なくお申し出下さい。

この4年間の本学のアニマルセンターの利用状況は、in vivoマイクロX線CTスキャナ(201手術室に設置)の導入、また、2階の感染実験室ならびに感染飼育室の使用の再開に伴いまして、ラットならびにマウスを用いた実験が増大の傾向にあります。本センターが研究の活性化において有効に活用されていることを嬉しく思います。今後さらなる活発な研究が推進され、より多くの成果が社会へ発信されることを期待致します。

それと同時に実験者の皆様をお願いしたいことは、「動物の愛護及び管理に関する法律」の施行以来、動物実験実施者には動物を命あるものとしてかんがみ、責任を持って適正な動物実験等の方法を選択することが求められている点です。動物実験計画の申請にあたっては、「3Rの原則」を十分に理解して立案いただくようお願いいたします。また、計画している動物実験において、遺伝子改変マウスの使用や感染動物実験を含む場合には、事前に遺伝子組換え安全委員会あるいはバイオセーフティー委員会において承認を受けていただく必要があります。本年報にも申請の手順の概略図を示しておりますので、いま一度ご覧になり確認ください。

昨今は動物実験に関する情報公開の徹底が求められています。本学においてもアニマルセンター年報と自己点検評価報告書をホームページ上に掲載し、社会へより広くその情報の開示を行っております。これからも「実験動物の飼養及び保管」と「動物実験」の双方が適正に行えているかの自己点検を的確に行い、センターの適正な管理運営に努めてまいりたいと思います。

実験動物は命あるものです。教育と研究の為にその尊い命を提供してくれた動物たちに改めて感謝の意を表したいと思います。

平成28年度アニマルセンター使用者講習会について

アニマルセンター副長 泉 利雄
(実験動物委員会副委員長)

アニマルセンター新規利用予定者および利用資格更新者を対象にして、平成28年5月12日に使用者講習会を開催した。これは文部科学省告示第七十一号と本学動物実験規則の定める教育訓練の一環である。受講者は、新規で18名、更新で16名であった。

5月12日の講習会の概要：

1. 日高アニマルセンター長（動物実験委員長）から、「動愛法」や関連する告示と、平成19年改正の本学動物実験規則に対する理解と遵守についての説明がなされた。アニマルセンターの活発な利用を促しつつ、規則に則った利用手続きを利用者に喚起した。



2. 泉センター副長（動物実験副委員長）から動物実験の倫理及び動物実験に関連した諸規則並びに実験計画承認申請の手続きについて説明した。
 - 1) 動物実験の3R（特に新規利用予定者に対して）と動物実験の立案ならびに計画承認申請方法。
 - 2) 本学での諸規則と実験計画承認申請の概要。特に更新者への説明では、旧規則からの変更点に重点を置き、変更申請や終了届に関しても説明した。
 - 3) 計画承認申請時の書式作成の雛形を示しながら説明した。3Rに対応した記載方法についても説明した。



3. アニマルセンター山下技能職員から、アニマルセンター利用方法の概要及び新規利用予定者に対し、実験実施者登録申請の方法について説明した。
4. 和才事務職員から、オートロックキーを利用した入館の仕組み、飼育費について説明した。

平成27年度福岡歯科大学実験動物慰霊祭の様相



平成27年度(第40回)実験動物慰霊祭が、10月8日(木)午後4時00分より、アニマルセンター玄関横の動物慰霊碑前にて、飯盛神社より神官2名を迎え、厳粛に執り行われました。

慰霊祭には、水田理事長、本田常務理事、北村常務理事、石川大学長をはじめ学園の役員、教職員、学園内外の実験動物関係者など74名余りが参列されました。

石川大学長から過去一年にわたり、医歯学の発展に寄与し、犠牲となった実験動物の霊に対し、深い敬意と感謝並びに哀悼の意を述べられました。

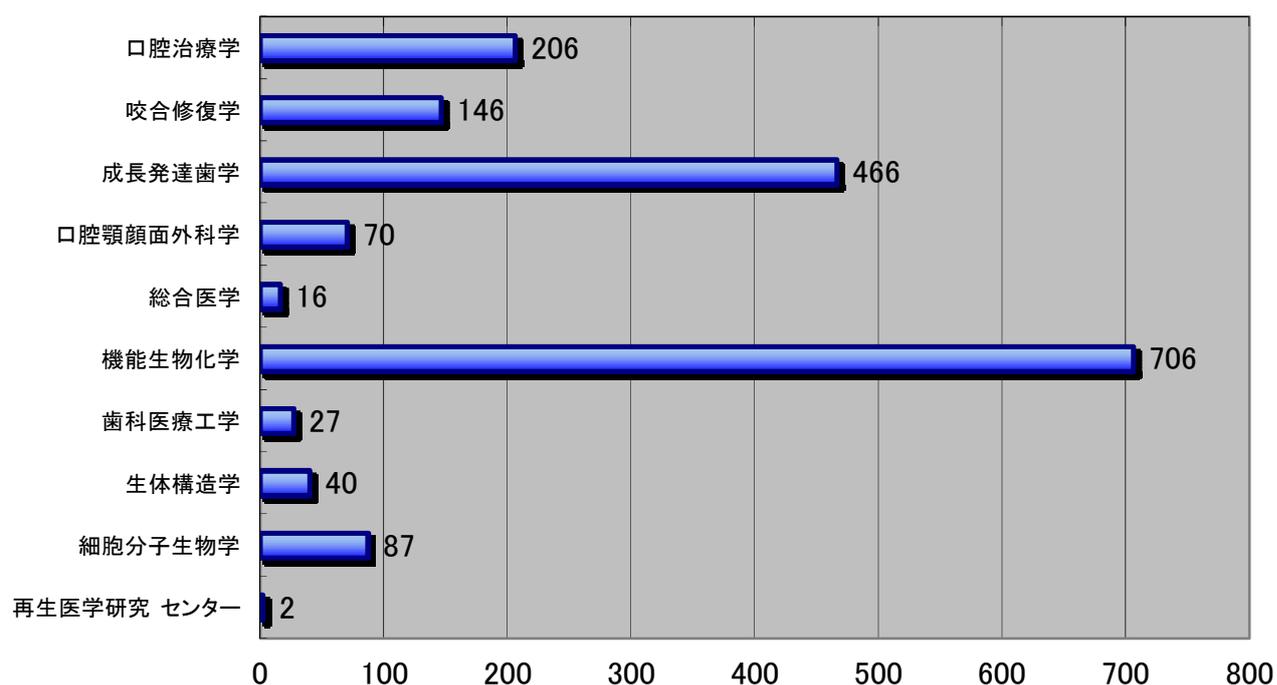


1. 平成27年度 利用者数

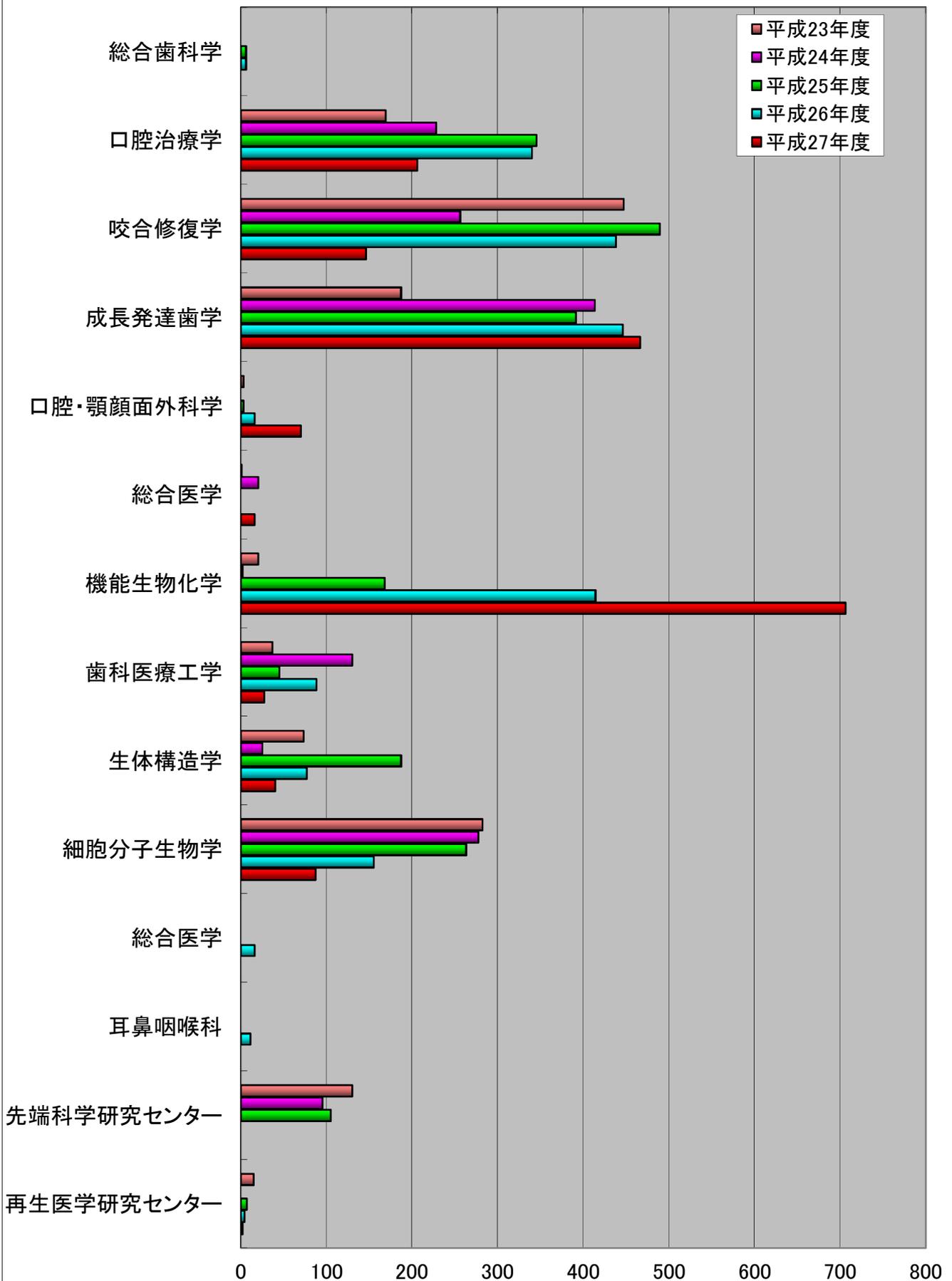
1-1. 講座・月別利用者数（S P F含む）

月 講座名	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
口腔治療学	40	23	28	19	22	4	10	7	7	14	16	16	206
咬合修復学	17	11	15	19	25	3	11	1	10	13	10	11	146
成長発達歯学	46	38	45	41	55	24	29	35	37	40	45	31	466
口腔顎顔面外科学	9	9	17	4	10	1	6		7	3	3	1	70
総合医学	2	6	4	4									16
機能生物化学	28	41	37	50	56	58	68	69	62	70	73	94	706
歯科医療工学	8	3	6	3	2	4		1					27
生体構造学	1		3	1			5	4	4	8	7	7	40
細胞分子生物学	14	15	12	6	7	9	4	3	3	3	5	6	87
再生医学研究センター		2											2
合計	165	148	167	147	177	103	133	120	130	151	159	166	1766

1-2. 年間講座別延利用者数



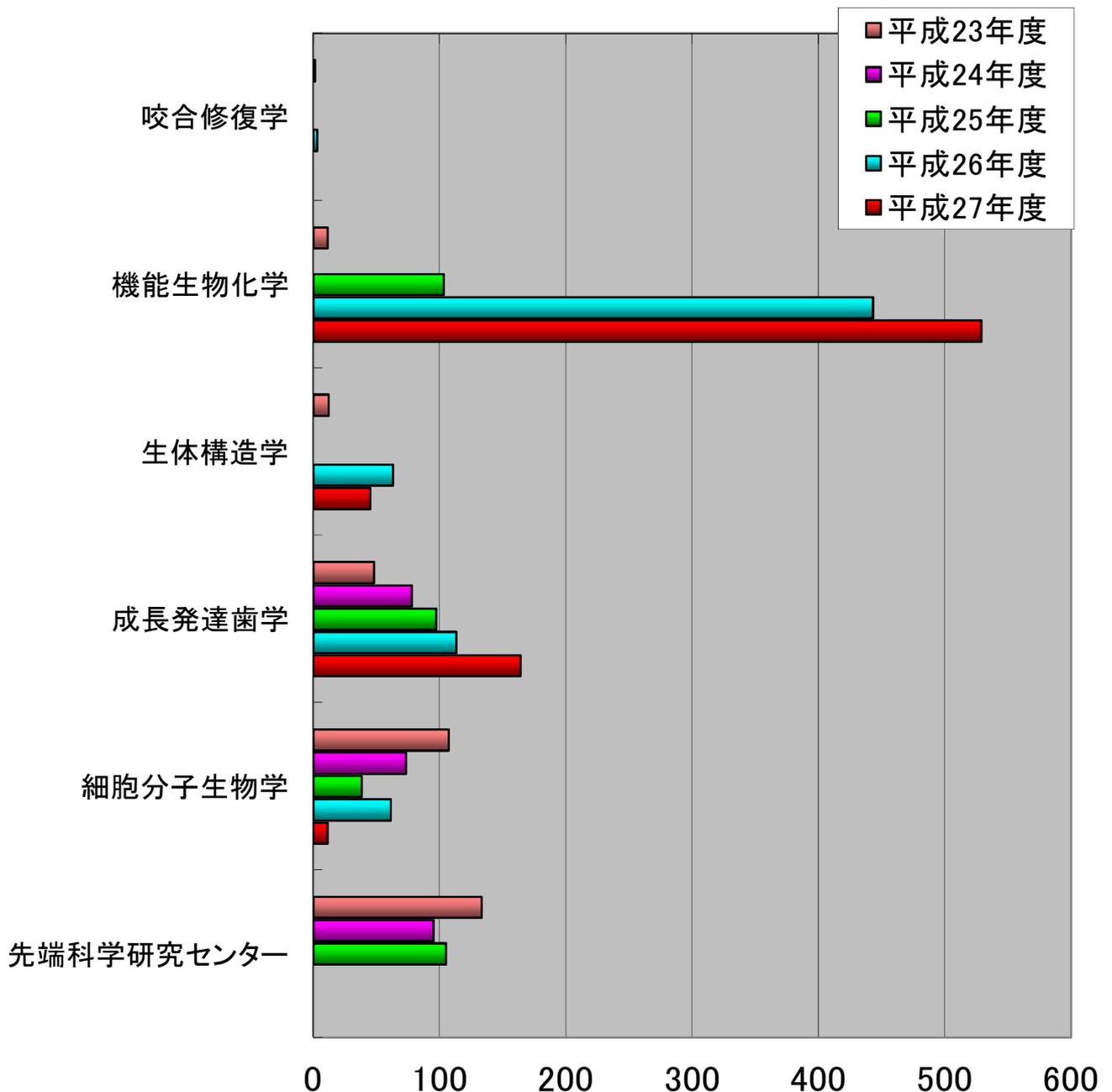
1-3. 過去5年間の講座別延利用者数



1-4. SPF室講座別延利用者数

月 講座名	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
口腔治療学	18	9	16	10	2	2	2	2	0	3	0	0	64
機能生物化学	37	35	39	42	54	46	54	42	42	44	50	44	529
生体構造学	3	4	5	2	3	0	1	4	4	6	6	7	45
成長発達歯学	10	13	19	17	13	7	12	16	14	16	12	15	164
細胞分子生物学	1	1	4	3	1	1	0	0	0	0	0	0	11
合計	69	62	83	74	73	56	69	64	60	69	68	66	813

1-5. 過去5年間のSPF室講座別延利用者数

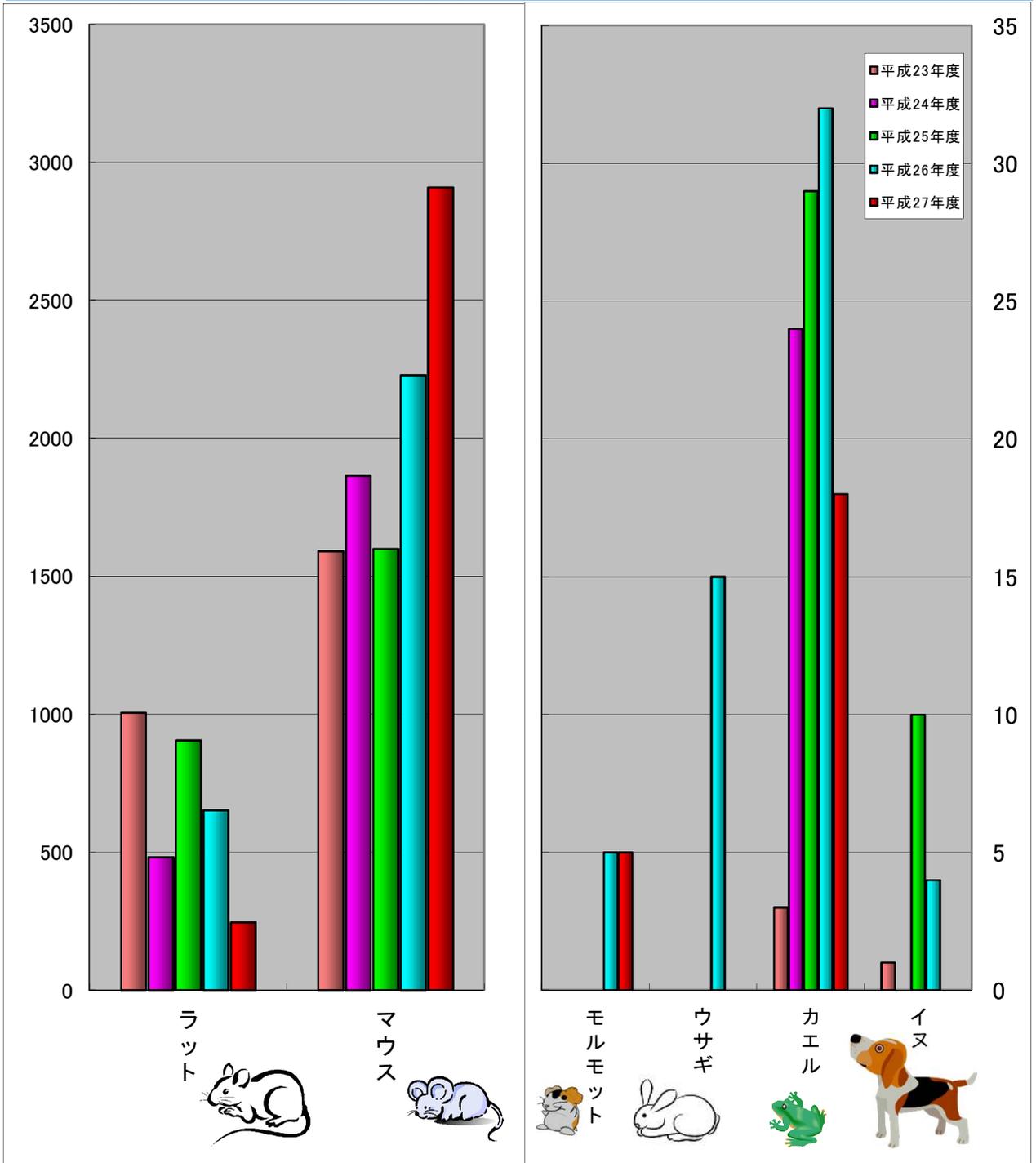


2. 平成27年度 動物導入数

2-1. 動物・月別導入数 (SPF含む)

動物名	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
ラット		7	30	106	21	5	6	18	2	8	4	13	27	247
マウス		254	242	292	195	119	233	275	150	162	194	209	584	2,909
モルモット			3		2									5
カエル		13		2				3						18
合計		274	275	400	218	124	239	296	152	170	198	222	611	3,179

2-2. 過去5年間の動物別延導入数



2-3. 分野別・月別動物延導入数(SPFを含む)

1)ラット

分野名/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
歯科保存学							12						12
歯周病学		6		19							11		
有床義歯学		12											12
口腔インプラント学					3	4	3			2			12
矯正歯科学													0
材料工学		6											6
病態構造学													0
細胞生理学									6			24	30
分子機能制御学	7	6	2	2	2	2	3	2	2	2	2	3	35
再生医学研究センター													0
アニマルセンター			6										6
合計	7	30	8	21	5	6	18	2	8	4	13	27	113

2)マウス

分野名/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
歯科保存学												48	48
歯周病学	27	16	37	24	26	40	22			34	17	6	249
有床義歯学				10	15	5	5	15	5	5		10	70
口腔インプラント													0
成育小児歯科学		35	36	29	22	23	63	34	74	34	5	110	465
矯正歯科学							84	10	22		38	129	
口腔外科学	13	21	37			10				16			97
感染生物学	50	27	107	73	56	103	82	90	28	104	99	136	955
材料工学													0
機能構造学	37	11	53	43		41	14		28		31	143	401
細胞生理学	52		9	16		11	5	1	5	1	19	2	121
分子機能制御学	75	132											207
再生医学研究センター													0
アニマルセンター			13										13
合計	254	242	292	195	119	233	275	150	162	194	209	584	2,578

3)カエル

分野名/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
細胞生理学	13	16	2				3						34
合計	13	16	2	0	0	0	3	0	0	0	0	0	34

4)モルモット

分野名/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
耳鼻咽喉科		3		2									5
合計	0	3	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	5

3. 平成27年度 動物延飼育数

3-1. 分野別・月別動物延飼育数

1) ラット

分野名/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
歯科保存学	174	72	92				228	303	12				881
歯周病学	702	472		76	114						132	54	1,550
有床養歯学	444	198											642
口腔インプラント学					61	27	51			40	58	62	299
成育小児歯科学	23												23
感染生物学								646					646
病態構造学	840	868	819	775	757	660	682	652	651	564	487	465	8,220
材料工学	293	303	436	342	63								1,437
細胞生理学									48	171	63	408	690
分子機能制御学	62	99	35	17	31	22	24	16	21	31	36	36	430
再生医学研究センター													0
アニマルセンター	60	62	122	124	124	120	124	120	124	124	74	62	1,240
合計	2,598	2,074	1,504	1,334	1,150	829	1,109	1,737	856	930	850	1,087	16,058

2) マウス

分野名/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
歯科保存学												48	48
歯周病学	1,081	1,518	1,726	2,455	2,875	2,070	1,951	1,350	1,395	2,252	2,118	2,465	23,256
有床養歯学				433	422	338	307	140	254	95		233	2,222
成育小児歯科学	23		16	56	87	84	171	369	540	206	365	366	2,283
口腔外科学	130	364	930	97		69	263	234	169	405	269	217	3,147
感染生物学						44	184		760	584	289	553	2,414
材料工学	433	271	120	124	40								988
機能構造学	2,040	2,277	2,563	3,065	4,981	4,583	5,217	4,142	3,887	3,747	3,510	4,726	44,738
細胞生理学	30	31	48	4		51	85	30	124	83	311	341	1,138
分子機能制御学	478	660	66										1,204
アニマルセンター	30		81	62	62	60	62	60	31	31	8		487
合計	4,245	5,121	5,550	6,296	8,467	7,299	8,240	6,325	7,160	7,403	6,870	8,949	81,925

3) モルモット

分野名/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
耳鼻咽喉科	30	63	51	26									170

合計	30	63	51	26	0	0	0	0	0	0	0	0	170
----	----	----	----	----	---	---	---	---	---	---	---	---	-----

4) イヌ

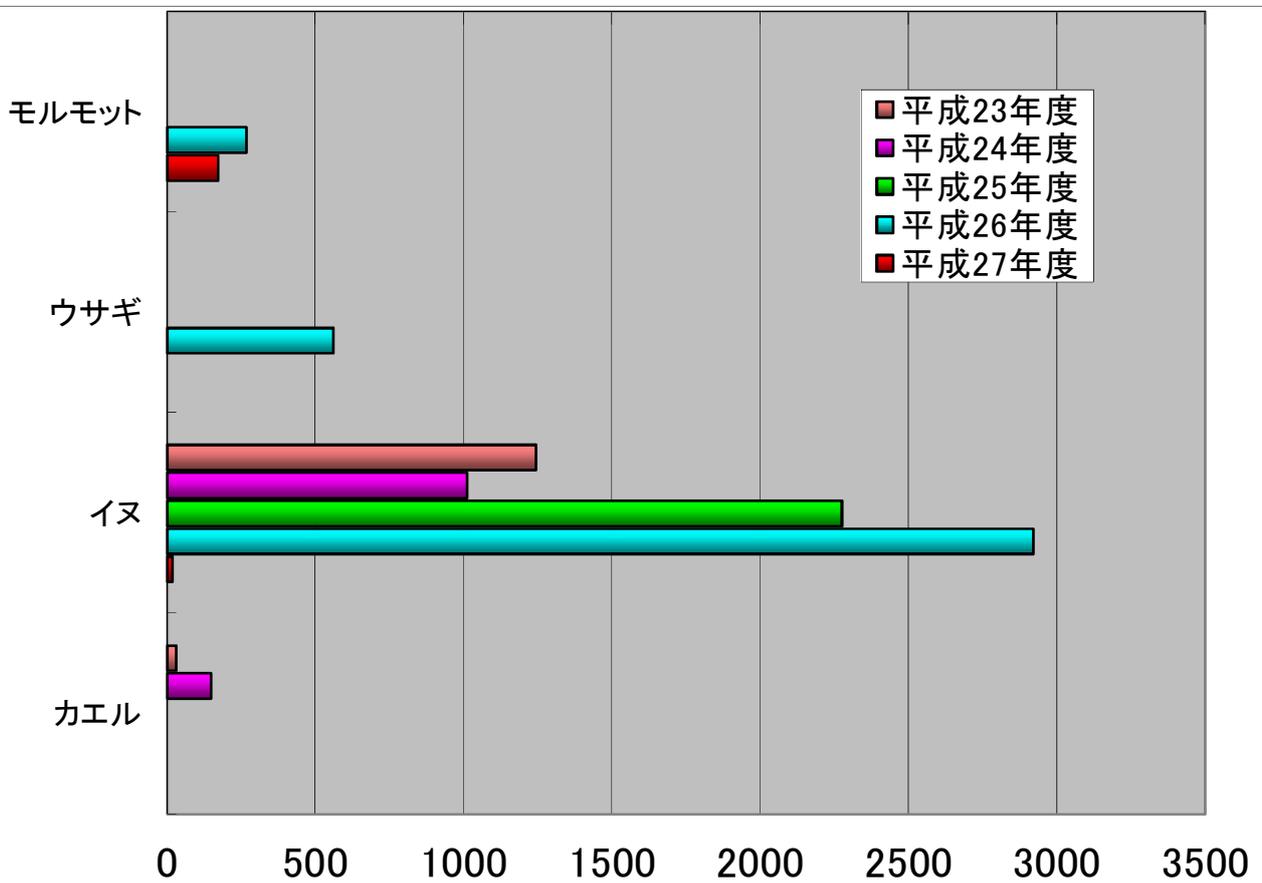
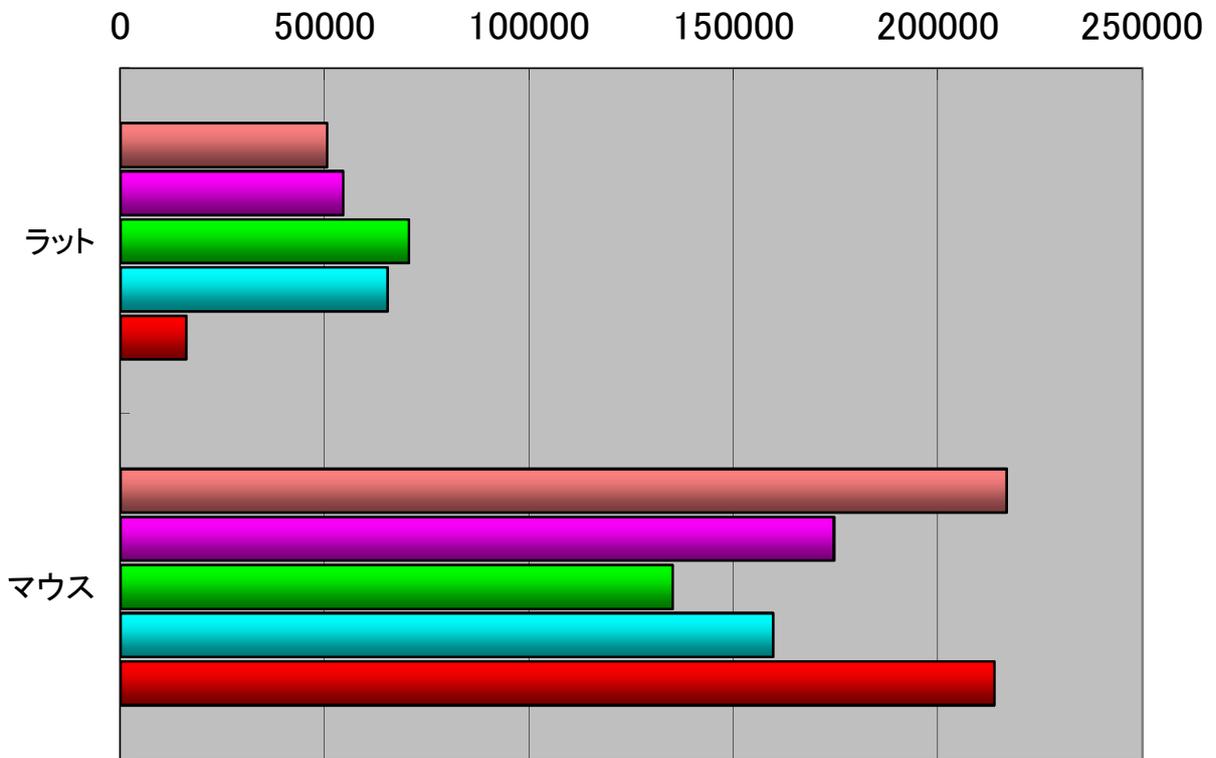
分野名/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
口腔インプラント学	16												16
合計	16	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	16

3-2. SPF室分野別・月別動物延飼育数

1) マウス

分野名/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
歯周病学	598	609	816	1,028	1,181	2,040	2,941	2,845	425	423	430	534	13,870
成育小児歯科学	1,139	915	1,338	1,438	1,149	1,306	1,347	733	777	1,144	718	455	12,459
感染生物学	2,652	2,312	2,908	4,194	4,416	4,758	4,335	4,550	4,752	4,301	5,564	6,284	51,026
機能構造学	1,754	2,258	1,545	2,668	1,475	750	653	690	1,190	1,660	1,276	2,434	18,353
細胞生理学	6,000	6,695	5,740	5,870	5,764	3,351	2,424	288					36,132
合計	12,143	12,789	12,347	15,198	13,985	12,205	11,700	9,106	7,144	7,528	7,988	9,707	131,840

3-3. 過去5年間の動物別延飼育数



3-4. アニマルセンターで飼育した動物の系統

動物種	系 統			
ラット	SD	Wistar	BN	Lewis
マウス	ddY	C57BL/6Tg	BALB/c	ICR
	C57BL/6	DBA/2J	R26R	
モルモット	ハートレー			
カエル	ウシガエル			

3-5. 分野別・月別動物使用数 (SPFを含む)

1) ラット

分野名/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
歯科保存学	8	3						10	2				23
歯周病学	15	17	4		19							11	66
有床義歯学	22	18											40
口腔インプラント学					3	1	6						10
成育小児歯科学	1												1
材料工学	1		2	4	9								16
病態構造学			3		3			1		3	3		13
細胞生理学										3	3		6
分子機能制御学	6	5	4	2	2	3	2	2	2	2	2	3	35
アニマルセンター			2								2		4
合計	53	43	15	6	36	4	8	13	4	8	10	14	214

2) マウス

分野名/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
歯周病学	14	1	7	3	33		26	97	1	2	8	11	203
有床義歯学				5	21	6	16	5	15	5		4	77
成育小児歯科学	36	7	18	44	19	34	80	45	47	43	35	55	463
口腔外科学		23	14	21		1	1	1	6	1	9		77
感染生物学	48	34	45	67	68	66	92	56	67	86	63	152	844
材料工学	1	10			4								15
機能構造学	13	22	18	8	73	32	70	104		61	6	11	418
細胞生理学	1	29	14	16	11	86	100	25	3	3	9	2	299
分子機能制御学	75	99	33										207
アニマルセンター		1	11								1		13
合計	188	226	160	164	229	225	385	333	139	201	131	235	2,616

3) モルモット

分野名/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
耳鼻咽喉科		1	3	2									6
合計	0	1	3	2	0	0	0	0	0	0	0	0	6

4)カエル

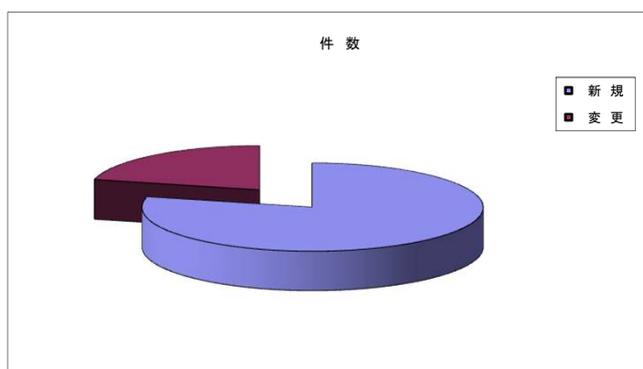
分野名/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
細胞生理学	13	16	2										31
分子機能制御学							3						3
合計	13	16	2	0	0	0	3	0	0	0	0	0	34

5)イヌ

分野名/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
口腔インプラント学	1												1
合計	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1

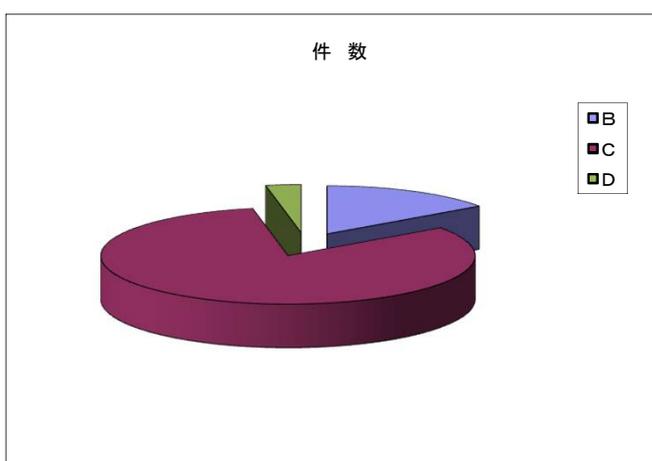
平成27年度 動物実験計画審査件数

実験審査		件数
内訳	新規	26
	変更	7
実験審査総数		33
実験承認件数		33

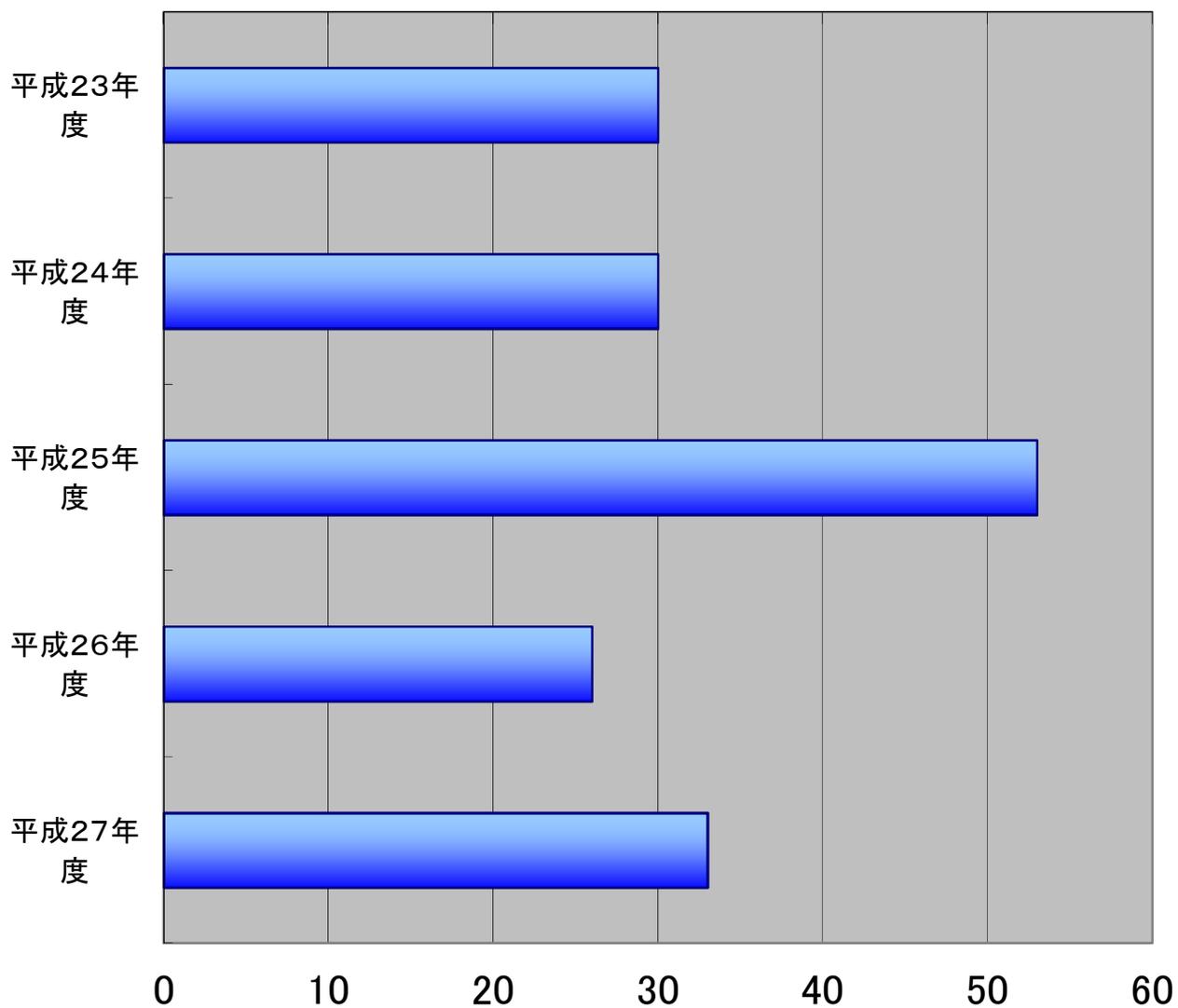


(内訳)倫理基準によるカテゴリー分類別

分類	件数
B	5
C	27
D	1
合計	33



過去5年間の動物実験承認件数



平成27年度使用者講習会

1. 第1回使用者講習会（更新対象者）

日 時：平成27年5月21日（木）18：30～19：00

場 所：502講義室

受講者数：15名

2. 第2回使用者講習会（新規対象者）

日 時：平成27年5月21日（木）18：30～19：30

場 所：502講義室

受講者数：15名

3. 第3回使用者講習会（更新対象者）

日 時：平成27年11月5日（木）18：00～18：30

場 所：アニマルセンター

受講者数：1名

4. 第4回使用者講習会（新規対象者）

日 時：平成28年2月1日（月）18：00～19：00

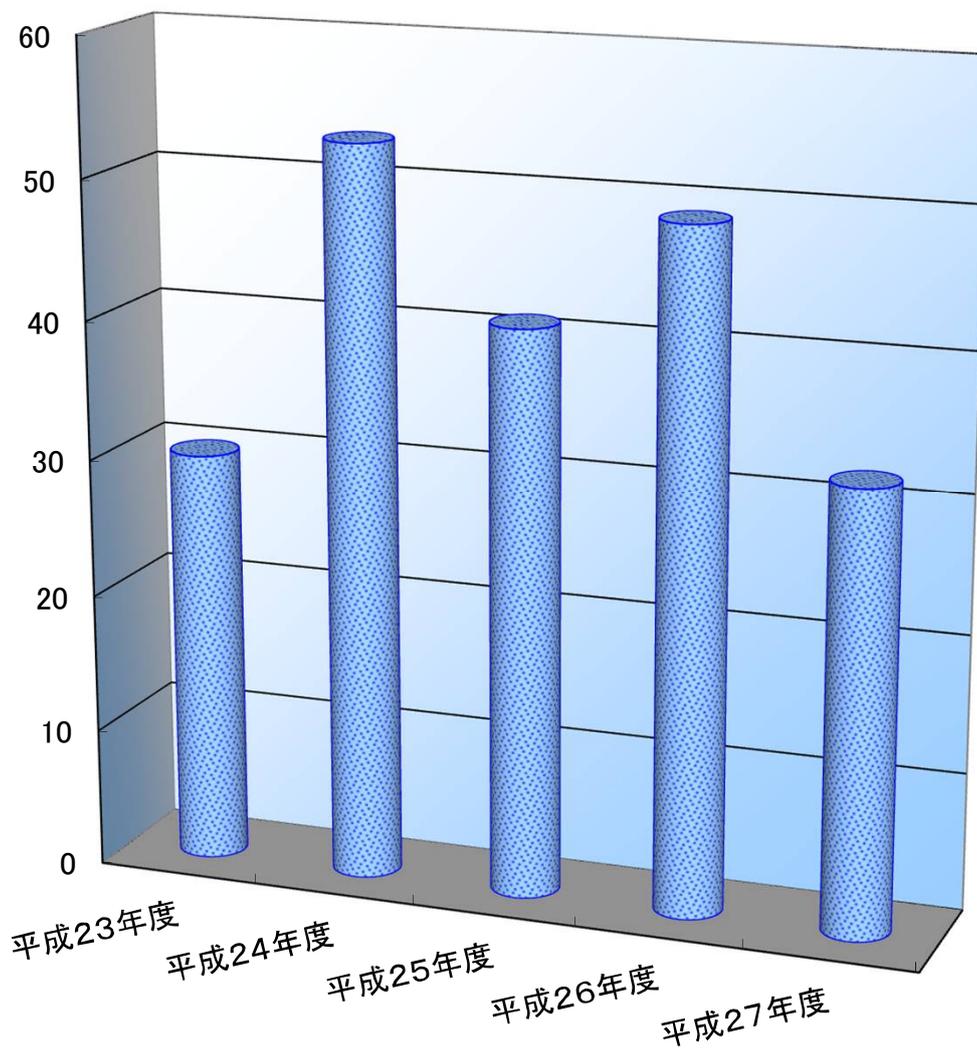
場 所：アニマルセンター

受講者数：1名

受 講 者 名 簿

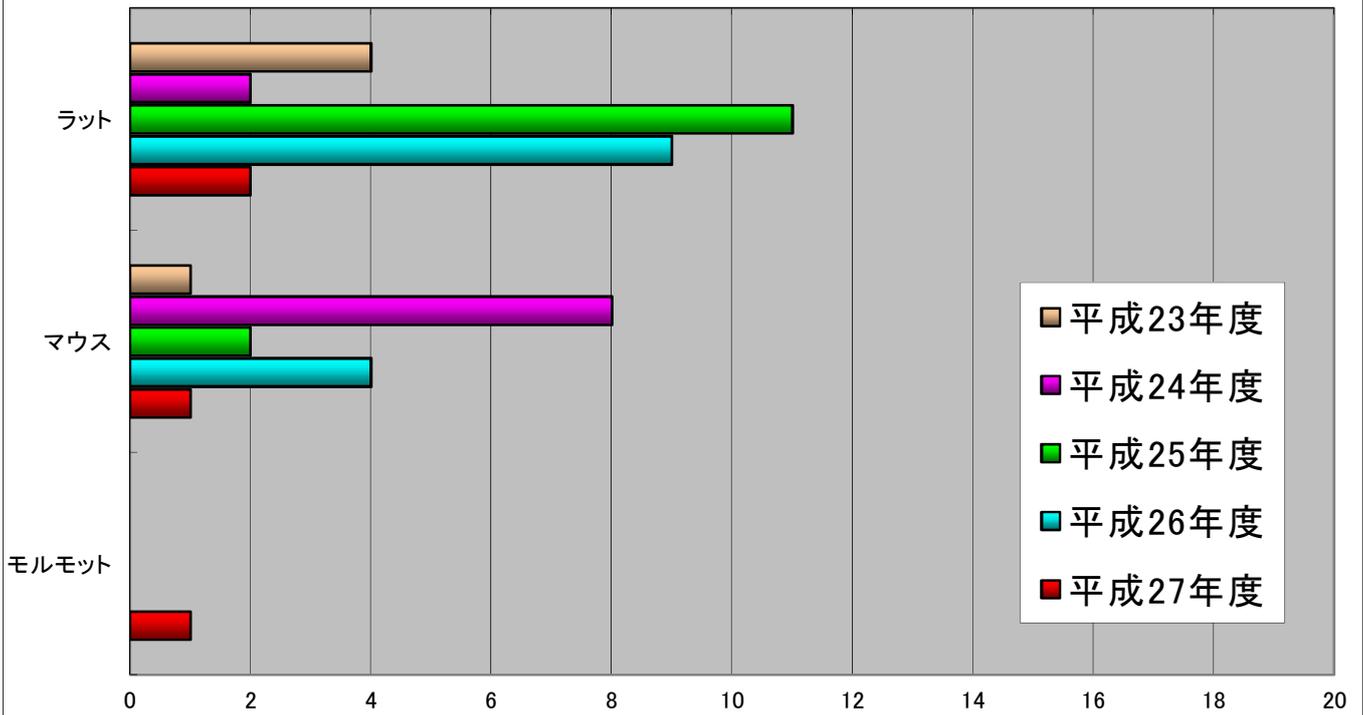
No.	受講者名	所属名(分野名)	講習会名
1	川越 慈	矯正歯科学	第1回使用者講習会(更新対象者)
2	高田 俊輔	矯正歯科学	
3	宮崎 綾子	矯正歯科学	
4	山之内 香	矯正歯科学	
5	城戸 貴史	口腔インプラント学	
6	加倉 加恵	口腔インプラント学	
7	山本 和子	口腔インプラント学	
8	坂上 竜資	歯周病学	
9	廣松 亮	歯周病学	
10	松本 典祥	歯科保存学	
11	水上 正彦	歯科保存学	
12	吉田 兼義	有床義歯学	
13	岡部 幸司	細胞生理学	
14	八田 光世	分子機能制御学	
15	永井 淳	地域連携センター	以上15名
16	武石 幸容	先端科学研究センター	第2回使用者講習会(新規対象者)
17	橋口 一成	先端科学研究センター	
18	平川 智裕	冠橋義歯学	
19	右田 理心	冠橋義歯学	
20	鴨頭 奈央子	矯正歯科学	
21	二階堂 美咲	歯科保存学	
22	吉永 泰周	歯科保存学	
23	河原 ゆり	歯周病学	
24	有田 陽一	歯周病学	
25	成田 由香	感染生物学	
26	有馬 裕子	冠橋義歯学	
27	尾崎 茜	障害者歯科学	
28	利光 拓也	障害者歯科学	
29	佐藤 健吉	障害者歯科学	
30	橋本 修一	病態構造学	以上15名
31	谷口 祐介	口腔インプラント学	第3回使用者講習会(更新対象者) 以上1名
32	山下 潤朗	口腔顔面美容医療センター	第4回使用者講習会(更新対象者) 以上1名
33			
34			
35			

過去5年間の利用者講習会の受講者数

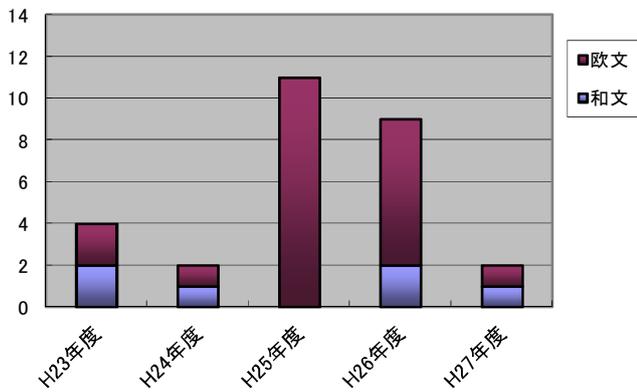


動物を使用した過去5年間の年度別研究業績

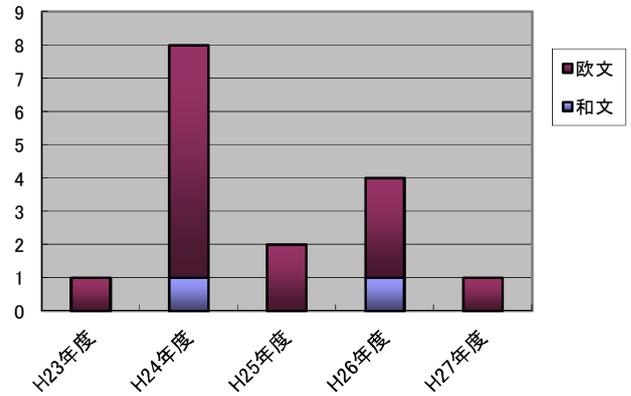
発表論文



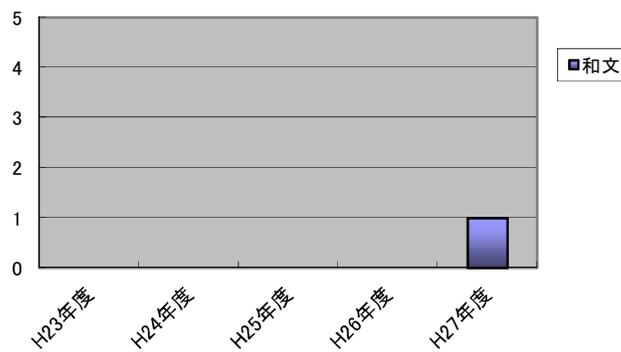
ラット



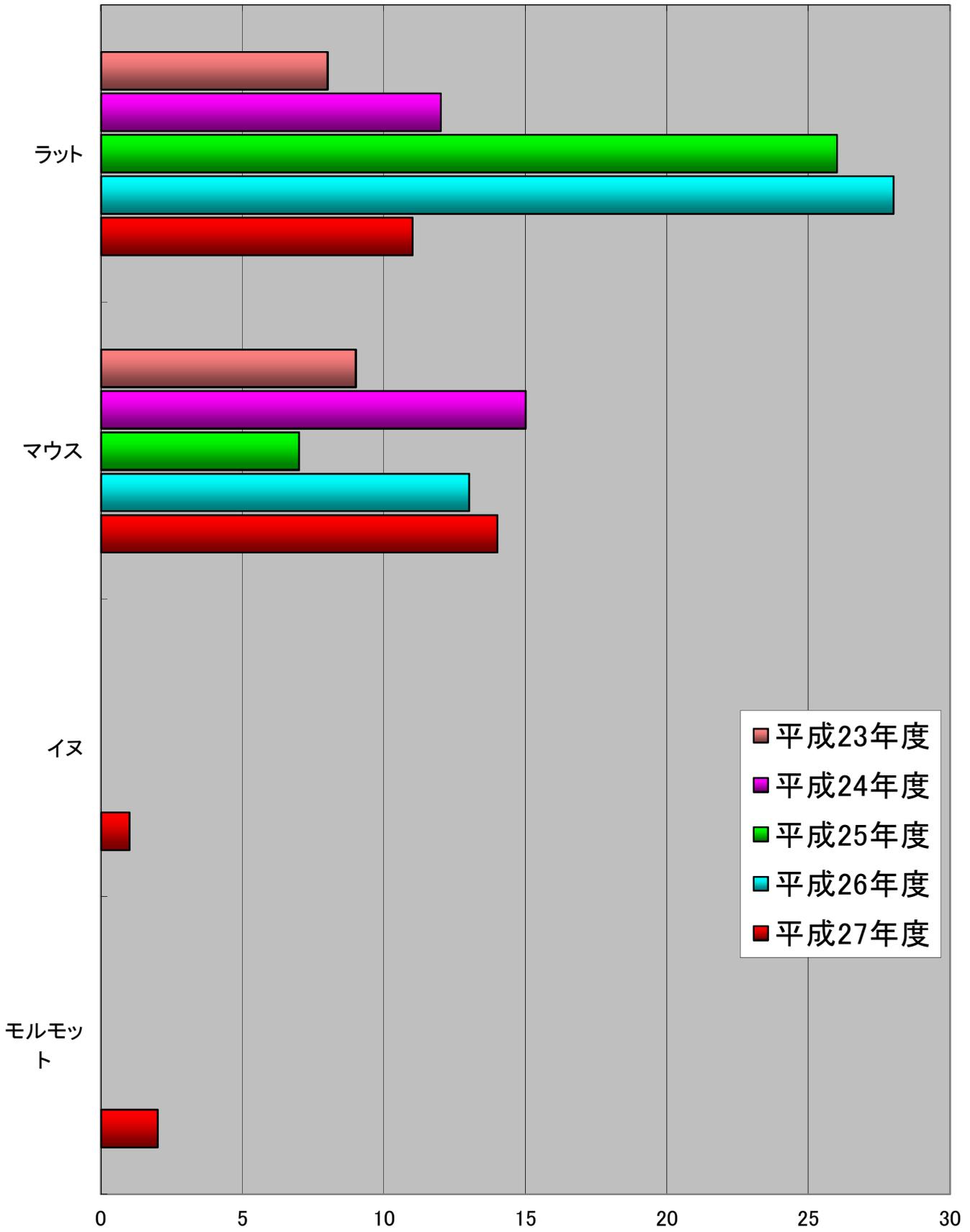
マウス



モルモット



学会発表



平成27年度(平成27年4月～平成27年3月)

動物を使用した研究業績

発表論文

ラット

- 1) Accelerated osteogenic differentiation and bone formation on zirconia with surface grooves created with fiber laser irradiation.
Yusuke Taniguchi , Kae Kakura , Katsuki Yamamoto , Hirofumi Kido , Jun Yamazaki.
Clinical Implant Dentistry and Related Research (IF:3.589)
In press
- 2) PSリポソームと生体活性ガラスの併用がラット頭蓋骨欠損部に及ぼす骨形成促進効果の解明
松本典祥, 中山英明, 二階堂美咲, 畠山純子, 水上正彦, 松崎英津子, 泉利雄, 阿南壽.
日本外傷歯学会雑誌 2015; 11: 55-60

マウス

- 1) Hyperocclusion stimulates the expression of collagen type XII in periodontal ligament.
Tsuzuki T, Kajiya H, T-Goto K, Tsutsumi T, Nemoto T, Okabe K, Takahashi Y.
Arch Oral Biol. 2016 Jun;66:86-91.

モルモット

- 1) 動物用マイクロCTスキャナSKYSCAN1176による生体モルモットの内耳の画像検査の試み
山野貴史 樋口仁美 上野哲子 中川尚志 森園哲夫
日本耳鼻咽喉科学会会報 119: 129-133, 2016.

ラット

- 1) Osteogenic Evaluation of DNA/Protamine Complex on the Bone Defect Peri-titanium Implant
Kae Kakura, Tsukasa Yanagi, Ayako Sato, Takuya Sakai, Hirofumi Kido
ICOI WORLD CONGRESS XXXII ベルリン 2015.10.15
- 2) ge-Related Changes in Interleukin-1 Expression within Experimentally Induced Periapical Lesions in
Anan H, Matsuzaki E, Matsumoto N, Nakayama H, Nikaido M.
63rdJADR, 2015年10月30-31日. (福岡市)
- 3) PSリポソームおよびハイドロキシアパタイトの併用による骨欠損修復への応用(会議録)
畠山 純子, 松本 典祥, 赤尾 瑛一, 泉 健太郎, 西崎 竜司, 中山 英明, 水上 正彦, 松崎 英津子, 泉 利雄, 阿南 壽
日本歯科保存学会 2015年度春季学術大会 (第142回)、2015年6月25-26日 (北九州市)
- 4) 骨粗鬆症モデルラットにおけるDNA/Protamine複合体の骨形成能の評価
柳 東, 佐藤 絢子, 松本 彩子, 宮口 直之, 加倉 加恵, 城戸 寛史
2015年ICOI日本学術大会 福岡 2015年7月31日~8月2日
- 5) DNAディスクを用いたラット頭蓋骨欠損モデルにおける骨再生効果
佐藤 絢子, 谷口 祐介, 柳 東, 篠崎 陽介, 山本 勝己, 城戸 寛史
2015年ICOI日本学術大会 福岡 2015.8.1
- 6) 骨髄由来間葉系幹細胞スフェロイドを用いた骨再生効果の促進
山口 雄一郎, 宮口 直之, 原賀 真理子, 篠崎 陽介, 山本 勝己, 城戸 寛史
2015年ICOI日本学術大会 2015.8.1
- 7) ラット頭蓋骨欠損部におけるハイドロキシアパタイトとPSリポソームの影響.
畠山純子, 松本典祥, 中山英明, 二階堂美咲, 水上正彦, 松崎英津子, 泉利雄, 阿南壽.
第5回日本外傷歯学会西日本地方会学術大会, 2015年11月1日. (高松)
- 8) ラット頭蓋骨欠損部におけるPSリポソームと生体活性ガラスの併用が及ぼす骨形成促進効果の解明.
松本典祥, 中山英明, 二階堂美咲, 畠山純子, 水上正彦, 松崎英津子, 泉利雄, 阿南壽.
第42回福岡歯科大学学会総会, 2015年12月13日. (福岡)
- 9) 骨伝導能を有する多孔性DNAスキャフォールドの開発
佐藤 絢子, 松本 彩子, 柳 東, 大野 純, 鍛治屋 浩, 城戸 寛史, 橋本 修一
第15回日本再生医療学会総会 大阪 2016.3.16
- 10) Zirconia Implant表面のファイバーレーザー処理粗面が骨結合に及ぼす影響について-骨結合強さ
および咬合荷重下における周囲骨の反応
谷口祐介, 加倉加恵, 安野貴美恵, 山崎純, 城戸寛史
第45回日本口腔インプラント学会学術大会総会
- 11) 咬合性外傷モデルにおける幹細胞関連ケモカインSDF-1とCXCR4の発現相関
後藤加寿子, 鍛治屋浩, 都築尊, 堤貴司, 岡部幸司, 佐藤博信
第42回福岡歯科大学学会総会, H27年12月15日. (福岡、福岡歯科大学本館)

マウス

- 1) Functional analysis of a novel immune signaling molecule involved in Th2-mediated allergic response.
Hashimoto, M., Nagao, J., Tasaki, S., Narita, Y., Cho, T., Yuasa, K., Tanaka, Y.
The 44th Annual Meeting of The Japanese Society for Immunology. Sapporo, Nov. 18-20th (18th), 2015.
- 2) The Distribution of Podoplanin in the Tooth and Craniofacial Bone.
Kaji C, Takara K, Hatakeyama Y, Kojima H, Sawa Y.
The 95th IADR (Korea).
- 3) The Morphological Investigation of Head and Neck Organs in the Systemic Podoplanin Knockout Mice.
Takara K, Hatakeyama Y, Kojima H, Sawa Y.
The 95th IADR (Korea).
- 4) Porphyromonas Gingivalis Lipopolysaccharide Promote Diabetic Nephropathy Through TLR2.
Kajiwara K, Takata S, Hatakeyama H, Ishikawa H, Sawa Y.
The 95th IADR (Korea).
- 5) The Cytokine Inductions in Glomerular Endothelial Cells With Porphyromonas gingivalis Lipopolysaccharide Through TLR2.
Takata S, Kajiwara K, Hatakeyama H, Ishikawa H, Sawa Y.
The 95th IADR (Korea).
- 6) Study for the Apical bud Differentiation Model Using Green Mice.
Maruo N, Yoshinaga Y, Sakagami R, Sawa Y.
The 95th IADR (Korea).
- 7) The expression of podoplanin and bone-associated proteins after mechanical stress .
Takenawa T, Kim T, Takakusaki Y, Sato Y, Iida J, Sawa Y.
The 95th IADR (Korea).
- 8) 幹細胞併用のためのサケ白子由来の骨誘導性DNAスカフォールドの開発
松本 彩子,森 南奈,鍛冶屋 浩,岡部 幸司,城戸 寛史,福島 忠男
第37回日本バイオマテリアル学会大会 京都 2015.11.9-10
- 9) サケ白子由来DNAスカフォールドの性質分析
松本 彩子,森 南奈,鍛冶屋 浩,岡部 幸司,城戸 寛史,福島 忠男
第42回福岡歯科大学総会 福岡 2015.12.13
- 10) 新規免疫系シグナル分子によるアレルギー制御機構の解明 (ポスター発表)
橋本麻利江, 永尾潤一, 田崎園子, 成田由香, 長 環, 湯浅賢治, 田中芳彦.
第57回歯科基礎医学会学術大会・総会 新潟, 9月12-13日 (12日), 2015
- 11) 口腔カンジダ症を選択的に標的とする免疫制御機構の解明 (ポスター発表)
田崎園子, 長 環, 永尾潤一, 成田由香, 橋本麻利江, 小島 寛, 田中芳彦.
第57回歯科基礎医学会学術大会・総会 新潟, 9月12-13日 (12日), 2015
- 12) Candida albicansの新規T細胞分化誘導抗原の探索 (ポスター発表)
長 環, 田崎園子, 永尾潤一, 成田由香, 橋本麻利江, 田中芳彦.
第57回歯科基礎医学会学術大会・総会新潟, 9月12-13日 (13日), 2015
- 13) 免疫応答を誘導する歯周病原細菌の菌体成分の探索 (ポスター発表)
成田由香, 田崎園子, 橋本麻利江, 永尾潤一, 長 環, 田中芳彦.
第57回歯科基礎医学会学術大会・総会新潟, 9月12-13日 (13日), 2015
- 14) 歯周病原細菌Porphyromonas gingivalisに対する免疫制御機構の解明 (ポスター発表)
永尾潤一, 田崎園子, 橋本麻利江, 成田由香, 長 環, 田中芳彦.
第57回歯科基礎医学会学術大会・総会新潟, 9月12-13日 (13日), 2015

モルモット

- 1) マイクロスキャナSKYSCAN1176のモルモット聴器観察の有用性
山野貴史、樋口仁美、中川尚志、森園哲夫
福岡歯科大学総合医学講座耳鼻咽喉科分野・福岡大学医学部耳鼻咽喉科・西福岡病院
第116回 日本耳鼻咽喉科学会総会・学術集会（東京都）平成27年5月20－23日
- 2) マイクロスキャナSKYSCAN1176のモルモット聴器観察の有用性(第2報)
山野貴史、樋口仁美、中川尚志、森園哲夫
福岡歯科大学総合医学講座耳鼻咽喉科分野・福岡大学医学部耳鼻咽喉科・西福岡病院
第25回 日本耳科学会総会・学術集会（長崎市）平成27年10月8－10日

イヌ

- 1) ビーグル犬下顎骨骨欠損部におけるDNA/プロタミン複合体の骨再生能の評価
佐藤絢子、柳束、松本彩子、宮口直之、谷口祐介、大野純、城戸寛史
第42回福岡歯科大学総会 福岡 2015.12.13

アニマルセンター一年表(平成27年度)

4月	2日	煙突アスベスト対策工事(～6月22日)	
	14日	動物実験委員会(持ち回り審議) 審査番号15001	
5月	12日	動物実験委員会(持ち回り審議) 審査番号15002	
	21日	第155回管理運営委員会 第1回使用者会議 第1回使用者講習会(更新対象者) 第2回使用者講習会(新規対象者) 第1回動物実験委員会	
	26日	感染区域オートクレーブ設置	
	6月	1日	第1回SPF室使用者講習会
	8日	動物実験委員会(持ち回り審議)新規 審査番号15003	
6月	15日	動物実験委員会(持ち回り審議)新規 審査番号15004	
		動物実験委員会(持ち回り審議)変更 審査番号13035	
	9日	オートクレーブ保守点検	
	23日	大学院生講義(実験動物の取扱い)	
	7月	2日	第1回感染室使用者講習会
	3日	動物実験委員会(持ち回り審議)新規 審査番号15005	
7月	7日～9日	SPF実験室流し台配管修理	
	15日	動物実験委員会(持ち回り審議)新規 審査番号15006	
	17日	動物実験委員会(持ち回り審議)新規 審査番号15007	
		動物実験委員会(持ち回り審議)変更 審査番号13023・13024・13027・14020	
	8月	4日	動物実験委員会(持ち回り審議)新規 審査番号15008
8月	5日	動物実験委員会(持ち回り審議)新規 審査番号15009	
	26日	動物実験委員会(持ち回り審議)変更 審査番号14006	
	31日	霜出エイ子さん(補助職員), 渋谷由香さん(補助職員) 退職	
	9月	8日	微生物モニタリング検査 微生物モニタリングでの陽性検出(ネズミ盲腸蟻虫、肺パストツレラ)
9月	10日	感染実験開始	
	16日	動物実験委員会(持ち回り審議)新規 審査番号15010	
		動物実験委員会(持ち回り審議)新規 審査番号15011	
	24日	感染室 バイオセーフティー委員会視察	
	29日	高橋章子さん(補助職員) 採用	
10月	1日	動物実験委員会(持ち回り審議)新規 審査番号15012	
	5日	動物実験委員会(持ち回り審議)新規 審査番号15013	
	7日	第2回SPF室使用者講習会	
	8日	第40回実験動物慰霊祭	
	15日	第156回管理運営委員会(SPF飼育室-5 感染報告対応について審議)	

		第2回使用者会議
	29日	動物実験委員会(持ち回り審議)新規 審査番号15014
11月	5日	第3回使用者講習会(更新対象者)
	7日	山下職員:第35回日本実験動物技術者協会九州支部研究発表会
	13日	SPF飼育室-5 閉鎖
	17日	SPF飼育室-5 クリーンアップ作業1回目
12月	1日	オートクレーブ保守点検
	2日	オートクレーブ法定検査
	3日	坂本知加子さん(補助職員) 採用
	8日	SPF飼育室-5 クリーンアップ作業2回目
	25日	第157回管理運営委員会
	28日	業務納め
1月	4日	業務始め
	12日	動物実験委員会(持ち回り審議)新規 審査番号15015
	19日	動物実験委員会(持ち回り審議)新規 審査番号15016
	20日	動物実験委員会(持ち回り審議)新規 審査番号15017
2月	1日	第4回使用者講習会(新規対象者) 第3回SPF使用者講習会
	2日	動物実験委員会(持ち回り審議)変更 審査番号13035
	8日	動物実験委員会(持ち回り審議)新規 審査番号15018
	9日	微生物モニタリング検査(すべて陰性)
	16日	早良区保健所立入調査
	25日	SPF一時保管用キーBOX 設置
3月	2日	第2回動物実験委員会 新規 審査番号15019・15020・15021・15022・15023・15024
	3日	第3回動物実験委員会 新規(審査番号15025)
	17日	感染区域アイソレータ設置 動物実験委員会(持ち回り審議)新規 審査番号15026
	24日	第158回管理運営委員会(SPF飼育室-5 飼育再開の承認) 第3回使用者会議
4月	19日	第5回使用者講習会(新規対象者)

会 議 録

動物実験委員会（平成 27 年度）

持ち回り決裁 平成 27 年 4 月 14 日（火）

〔議題〕 1. 動物実験計画の審査（カテゴリーB）について 1 5 0 0 1

持ち回り決裁 平成 27 年 5 月 12 日（火）

〔議題〕 1. 動物実験計画の審査（カテゴリーB）について 1 5 0 0 2

第 1 回会議 平成 27 年 5 月 21 日（木）

〔議題〕 1. 平成 2 6 年度委員会目標結果及び平成 2 7 年度委員会目標（案）について
2. その他

持ち回り決裁 平成 27 年 6 月 8 日（金）

〔議題〕 1. 動物実験計画の審査（カテゴリーC）について 1 5 0 0 3

持ち回り決裁 平成 27 年 6 月 15 日（月）

〔議題〕 1. 動物実験計画の審査（カテゴリーC）について 1 5 0 0 4
2. 動物実験計画の審査（カテゴリーC）について 1 3 0 3 5

持ち回り決裁 平成 27 年 7 月 3 日（金）

〔議題〕 1. 動物実験計画の審査（カテゴリーC）について 1 5 0 0 5

持ち回り決裁 平成 2 7 年 7 月 15 日（水）

〔議題〕 1. 動物実験計画の審査（カテゴリーC）について 1 5 0 0 6

持ち回り決裁 平成 27 年 7 月 17 日（金）

〔議題〕 1. 動物実験計画の審査（カテゴリーC）について 1 5 0 0 7
2. 動物実験計画の審査（カテゴリーC）について 1 3 0 2 3
3. 動物実験計画の審査（カテゴリーC）について 1 3 0 2 4
4. 動物実験計画の審査（カテゴリーC）について 1 3 0 2 7
5. 動物実験計画の審査（カテゴリーC）について 1 4 0 2 0

持ち回り決裁 平成 27 年 8 月 4 日（火）

〔議題〕 1. 動物実験計画の審査（カテゴリーC）について 1 5 0 0 8

持ち回り決裁 平成 27 年 8 月 5 日（水）

〔議題〕	1. 動物実験計画の審査（カテゴリーC）について	1 5 0 0 9
持ち回り決裁	平成 27 年 8 月 26 日（金）	
	1. 動物実験計画の審査（カテゴリーC）について	1 4 0 0 6
持ち回り決裁	平成 27 年 9 月 16 日（水）	
〔議題〕	1. 動物実験計画の審査（カテゴリーC）について	1 5 0 1 0
	2. 動物実験計画の審査（カテゴリーC）について	1 5 0 1 1
持ち回り決裁	平成 27 年 10 月 1 日（木）	
〔議題〕	1. 動物実験計画の審査（カテゴリーB）について	1 5 0 1 2
持ち回り決裁	平成 27 年 10 月 5 日（月）	
〔議題〕	1. 動物実験計画の審査（カテゴリーC）について	1 5 0 1 3
持ち回り決裁	平成 27 年 10 月 29 日（木）	
〔議題〕	1. 動物実験計画の審査（カテゴリーC）について	1 5 0 1 4
持ち回り決裁	平成 28 年 1 月 12 日（火）	
〔議題〕	1. 動物実験計画の審査（カテゴリーC）について	1 5 0 1 5
持ち回り決裁	平成 28 年 1 月 19 日（火）	
〔議題〕	1. 動物実験計画の審査（カテゴリーC）について	1 5 0 1 6
持ち回り決裁	平成 28 年 1 月 20 日（水）	
〔議題〕	1. 動物実験計画の審査（カテゴリーC）について	1 5 0 1 7
持ち回り決裁	平成 28 年 2 月 2 日（火）	
〔議題〕	1. 動物実験計画の審査（カテゴリーC）について	1 3 0 3 5
持ち回り決裁	平成 28 年 2 月 8 日（月）	
〔議題〕	1. 動物実験計画の審査（カテゴリーC）について	1 3 0 1 8
第 2 回会議	平成 28 年 3 月 2 日（水）	
〔議題〕	1. 動物実験計画の審査（カテゴリーB）について	1 5 0 1 9
	2. 動物実験計画の審査（カテゴリーC）について	1 5 0 2 0
	3. 動物実験計画の審査（カテゴリーD）について	1 5 0 2 1
	4. 動物実験計画の審査（カテゴリーC）について	1 5 0 2 2
	5. 動物実験計画の審査（カテゴリーC）について	1 5 0 2 3
	6. 動物実験計画の審査（カテゴリーC）について	1 5 0 2 4

会 議 録

管理運営委員会（平成 27 年度）

第 155 回会議 平成 27 年 5 月 21 日（木）

- 〔議題〕
1. アニマルセンター関係委員会の委員及び職員の変更について
 2. 平成 26 年度予算の決算について
 3. 平成 27 年度予算の配当について
 4. 平成 27 年度第 1 回使用者会議の実施結果について
 5. 平成 27 年度使用者講習会の実施結果について
 6. 平成 27 年度 S P F 室使用者講習会の実施結果について
 7. アニマルセンター年報(2014 年版)発行について
 8. 第 39 回実験動物慰霊祭実施結果について
 9. 大学院講義の実施結果について
 10. 微生物モニタリング検査の実施結果について
 11. 遺伝子組換え実験室の実地調査について
 12. アニマルセンター補助職員（飼育担当）時給変更について

第 156 回会議 平成 27 年 10 月 15 日（木）

- 〔議題〕
1. アニマルセンターにおける感染動物発見について

第 157 回会議 平成 27 年 12 月 25 日（金）

- 〔議題〕
1. アニマルセンター感染実験室におけるビニールアイソレーターを用いた無菌動物の飼育について
 2. アニマルセンター 2 F の手術室及び研究室の P I A 実験室申請について

第 158 回会議 平成 28 年 3 月 24 日 (木)

- 〔議題〕
1. 微生物モニタリング検査結果の報告及びアニマルセンター 3 階
S P F 室—5 飼育再開について
 2. 感染区域の搬出について

会 議 録

使用者会議（平成27年度）

第1回会議 平成27年 5月21日（木）

〔議題〕

1. アニマルセンター補助職員（飼育担当）時給変更について
2. 平成27年度飼育単価・管理経費及び共益費等について
3. 感染動物実験室の利用開始について
4. 遺伝子組換え実験室の実地調査について
5. 平成27年度アニマルセンター年間行事予定について
6. その他

第2回会議 平成27年 10月15日（木）

〔議題〕

1. アニマルセンターにおける感染動物発見について
2. その他

第3回会議 平成28年 3月24日（木）

〔議題〕

1. 微生物モニタリング検査結果の報告及びアニマルセンター3階SPF室—5の飼育再開について
2. その他

7. 動物実験計画の審査（カテゴリーC）について 15025

8. その他

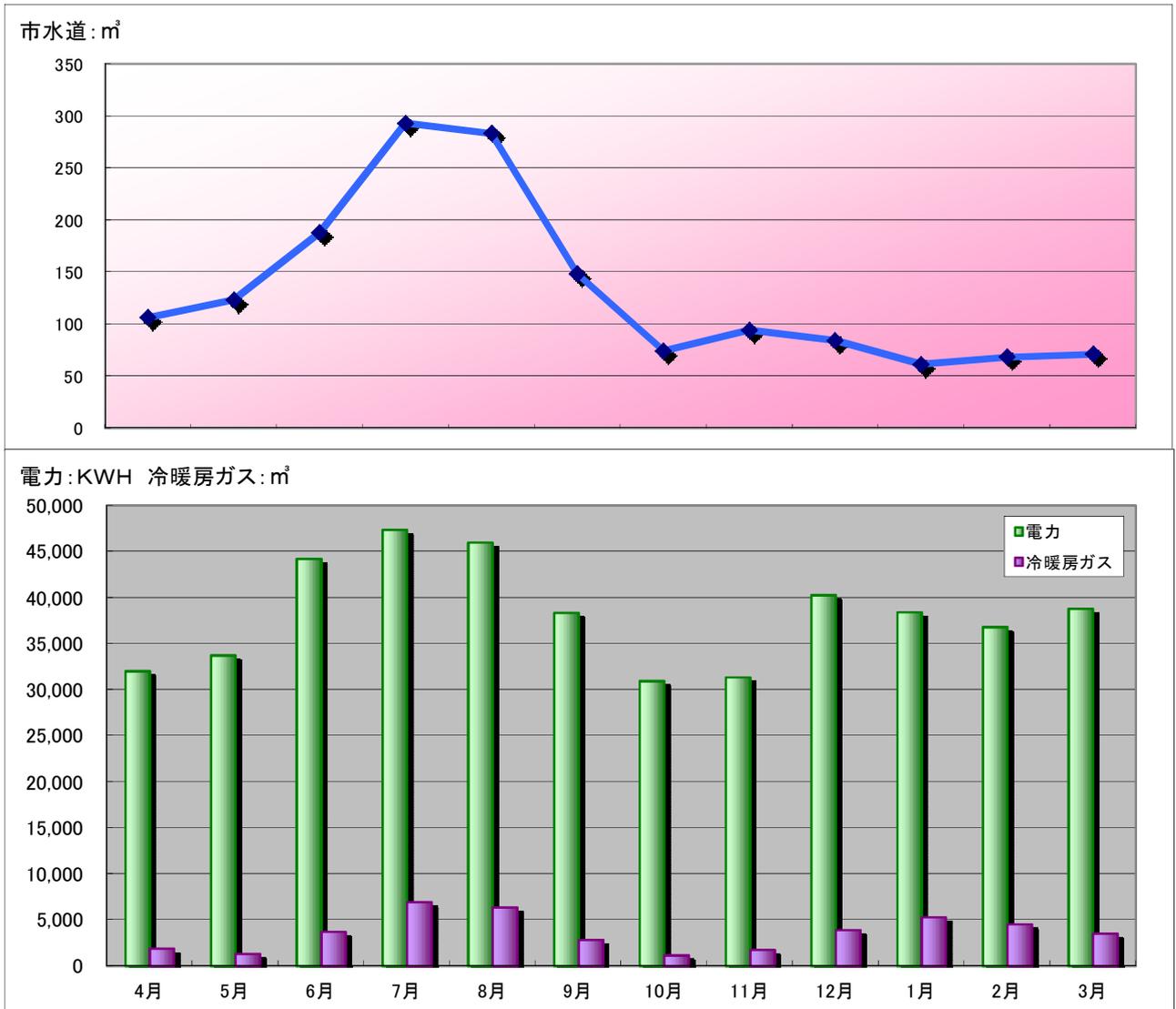
第2回会議 平成28年3月3日（木）

〔議題〕 1. 動物実験計画の審査（カテゴリーCについて 15025

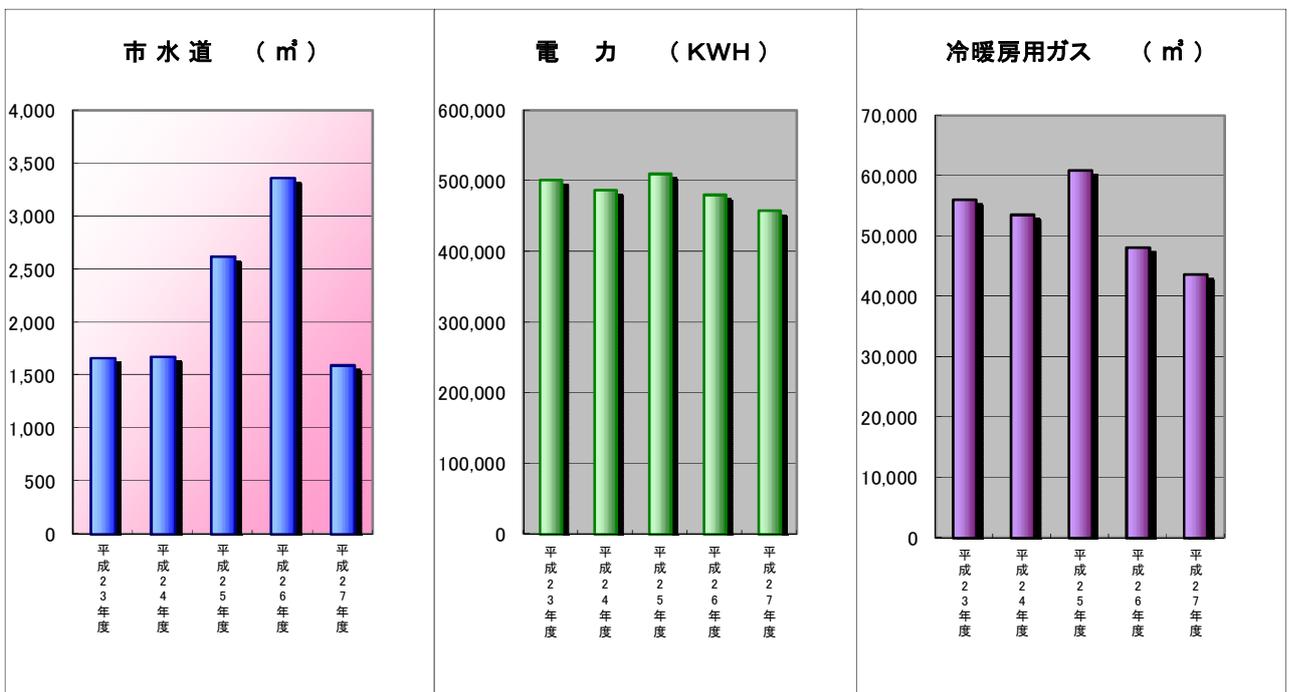
持ち回り決裁 平成28年3月17日（木）

〔議題〕 1. 動物実験計画の審査（カテゴリーB）について 15026

平成27年度 月別光熱水使用量



過去5年間の光熱水使用量の推移



福岡歯科大学・福岡医療短期大学動物実験規則

(目的)

第1条 この規則は、「動物の愛護及び管理に関する法律(昭和48年10月法律第105号)」(以下「法」という。)、指針等及びその他の動物実験等に関する法令等に基づき、福岡歯科大学アニマルセンター(以下「センター」という。)で動物実験等を適正に行うため、必要な事項を定めるものとする。

(定義)

第2条 この規則において、次の各号に掲げる用語の意義は、それぞれ当該各号に定めるところによる。

- (1) 「動物実験等」とは、動物を教育、学術研究又は生物学的材料採取、その他の科学上の利用に供することをいう。
- (2) 「実験動物」とは、動物実験等の利用に供するためセンターで飼養及び保管している哺乳類、鳥類、爬虫類及び両生類に属する動物をいう。
- (3) 「動物実験計画」とは、動物実験等を行うために事前に立案する計画をいう。
- (4) 「動物実験実施者」とは、動物実験等を実施する者をいう。
- (5) 「動物実験責任者」とは、動物実験実施者のうち、動物実験等の実施に関する業務を総括する者をいう。
- (6) 「管理者」とは、大学長のもとで、実験動物及び施設等を管理する者(センター長)をいう。
- (7) 「飼養者」とは、管理者又は動物実験実施者の下で、実験動物の飼養又は保管に従事する者をいう。
- (8) 「管理者等」とは、大学長、管理者、動物実験実施者及び飼養者をいう。
- (9) 「指針等」とは、「実験動物の飼養及び保管並びに苦痛の軽減に関する基準(平成18年4月環境省告示88号)」、「研究機関等における動物実験等の実施に関する基本指針(平成18年6月文部科学省告示第71号)」、「動物の処分方法に関する指針(平成7年7月総理府告示第40号)」及び日本学術会議が策定した「動物実験の適正な実施に向けたガイドライン(平成18年6月)」をいう。

(動物実験委員会の設置)

第3条 福岡歯科大学・福岡医療短期大学(以下「本学」という。)における動物実験等の適正な実施に関し必要な事項を審査及び審議するために、動物実験委員会(以下「委員会」という。)を置く。

2 委員会の組織、運営等に関しては、別に定める。

(動物実験計画の承認及び実験実施結果の把握)

第4条 大学長は、動物実験計画の申請があったとき、委員会の審査を経て、適正な動物実験計画について承認する。また、動物実験計画の実施状況及び結果について報告を受けると共に、必要に応じ動物実験等の実施の適正について、委員会に諮り改善措置を講ずるものとする。

(実験計画書の作成)

第5条 動物実験責任者は、動物実験等により取得されるデータの科学的信頼性を確保すると同時に、動物実験等倫理の観点から、次の各号に掲げる事項を踏まえて動物実験計画を立案し、動物実験計画承認申請書を提出して大学長の承認を受けなければならない。

(1) 代替法の利用

科学上の利用の目的を達することができる範囲において、できる限り実験動物を供する方法に代わり得るものを利用すること等により実験動物を適切に利用することに配慮すること。

(2) 動物の選択

科学上の利用の目的を達することができる範囲において、できる限りその利用に供される実験動物の数を少なくすること等により実験動物を適切に利用することに配慮すること。この場合において、動物実験等の目的に適した実験動物種の選定、動物実験成績の精度及び再現性を左右する実験動物の数、遺伝学的及び微生物学的品質並びに飼養条件を考慮する必要がある。

(3) 苦痛の軽減

科学上の利用に必要な限度において、できる限りその実験動物に苦痛を与えない方法によってすること。

(4) 人道的エンドポイント

動物実験責任者は、苦痛度の高い動物実験等、あるいは致死的な動物実験等を行う場合、実験に伴う激しい苦痛から動物を解放するためのエンドポイント(実験打切りの時期)を動物実験計画段階で設定すること。

(動物実験等の実施場所)

第6条 動物実験等の実施は、基本的には、センター内の実験室を用いるものとする。

(安全管理に特に注意を払う必要がある動物実験等)

第7条 物理的、化学的に危険な材料、あるいは病原体等、人の安全・健康もしくは周辺環境に影響を及ぼす危険性のある動物実験等を実施する際には、動物実験実施者及び飼養者の安全確保について特に注意を払わなければならない。

- 2 飼育環境の汚染により実験動物が傷害を受けることのないよう施設及び設備(以下「施設等」という。)を保持するとともに、実験動物の健康保持に配慮するものとする。
- 3 遺伝子組換え動物を用いる動物実験等、生態系に影響を及ぼす可能性のある動物実験等を実施する際には、関係法規等に従うものとする。
- 4 実験の実施に先立ち必要な実験手技等の習得に努め、侵襲性の高い大規模な存命手術にあたっては、経験等を有する者の指導の下で行うものとする。

(動物実験実施後の報告)

第8条 動物実験責任者は、動物実験等実施後、動物実験結果報告書により、使用動物数、計画変更の有無、実験成果等について、大学長に報告しなければならない。

(施設等)

第9条 動物実験等を実施する際の実験動物の飼養及び保管は、法及び指針等を踏まえ、科学的観点及び動物の愛護の観点から適切に実施するものとする。

- 2 実験動物の種に応じた飼育設備、衛生設備及び逸走防止のための設備又は構造を有するものとする。
- 3 飼養保管施設の周辺環境等に悪影響を及ぼさないよう、臭気、騒音、廃棄物の扱い等の環境衛生面に十分配慮がなされているものとする。

(施設等の維持管理)

第10条 管理者は、実験動物の適正な飼養保管並びに動物実験等を行う施設等の維持に努めなければならない。

- 2 管理者は、施設等及び周辺の環境衛生の保全に努めなければならない。

(実験動物の健康及び安全の保持)

第 11 条 管理者、実験実施者及び飼養者は、次の各号に掲げる事項に留意し、実験動物の健康及び安全の保持に努めるものとする。

- (1) 実験動物の生理、生態、習性等に応じ、かつ、動物実験等の目的の達成に支障を及ぼさない範囲で、適切に給餌及び給水を行うこと。
- (2) 実験目的以外の傷害や疾病から実験動物を守るために、必要な健康管理を行うこと。また、実験動物が傷害を負い又は疾病にかかった場合にあっては、動物実験等の目的の達成に支障を及ぼさない範囲で、適切な治療等を行うこと。
- (3) 施設への実験動物の導入に当たっては、実験実施者、飼養者及び他の実験動物の健康を損ねることのないようにするとともに、必要に応じて飼養環境への順化又は順応を図るための措置を講じること。
- (4) 異種又は複数の実験動物を同一施設内で飼養及び保管する場合には、動物実験等の目的の達成に支障を及ぼさない範囲で、その組合せを考慮した収容を行うこと。
- (5) 実験動物が室内で逸走しても捕獲しやすい環境が維持されていること。

(記録の保存及び報告)

第 12 条 管理者等は、実験動物の飼養及び保管の適正化を図るため、実験動物の入手先、飼育履歴、病歴等に関する記録管理を適正に行うよう努めるものとする。また、特定危険動物、あるいは特定外来生物等については、マイクロチップ等による識別措置を講じなければならない。

(生活環境の保全)

第 13 条 管理者等は、実験動物の汚物等の適切な処理を行うとともに、施設等を常に清潔にして、微生物等による環境の汚染及び悪臭、害虫等の発生の防止を図ることによって、また、施設等の整備等により騒音の防止を図ることによって、施設等及び施設周辺の生活環境の保全に努めなければならない。

(危害等の防止)

第 14 条 管理者等は、実験動物の飼養及び保管に当たり、次の各号に掲げる実験動物による人への危害、環境保全上の問題等の発生の防止に努めるものとする。

- (1) 管理者は、実験動物が逸走しない構造及び強度の施設等を整備する

こと。

- (2) 管理者は、実験実施者及び飼養者が実験動物に由来する疾病にかかることを予防するため、必要な健康管理を行うこと。
- (3) 管理者は、実験実施者及び飼養者が危険を伴うことなく作業ができる施設等の構造及び飼養又は保管の方法を確保すること。
- (4) 管理者は、施設等の日常的な管理及び保守点検並びに定期的な巡回等により、飼養又は保管をする実験動物の数及び状態の確認が行われるようにすること。
- (5) 実験実施者及び飼養者は、相互に実験動物による危害の発生の防止に必要な情報の提供等を行うよう努めること。
- (6) 管理者等は、実験動物の飼養及び保管並びに動物実験等に関係のない者が実験動物に接することのないよう必要な措置を講じること。

(逸走時の対応)

第 15 条 管理者等は、実験動物が保管設備等から逸走しないよう必要な措置を講じなければならない。また、管理者は、実験動物が逸走した場合の捕獲等の措置についてあらかじめ定め、逸走時の人への危害及び環境保全上の問題等の発生の防止に努めるとともに、人に危害を加える等のおそれがある実験動物が施設外に逸走した場合には、速やかに関係機関への連絡を行うものとする。

(緊急時の対応)

第 16 条 管理者は、地震、火災等の緊急時に採るべき措置に関する計画をあらかじめ作成し、関係者に周知を図るものとする。管理者等は、緊急事態が発生したときは、速やかに、実験動物の保護及び実験動物の逸走による人への危害、環境保全上の問題等の発生の防止に努めなければならない。

(譲渡及び輸送の方法)

第 17 条 管理者等は、実験動物の譲渡にあたっては、その生理、生態、習性等、適正な飼養及び保管の方法、感染性の疾病等に関する情報を提供し、譲り受ける者に対する説明責任を果たさなければならない。

2 実験動物の輸送を行う場合には、次の各号に掲げる事項に留意し、実験動物の健康及び安全の確保並びに実験動物による人への危害等の発生の防止に努めなければならない。

- (1) なるべく短時間に輸送できる方法を採用すること等により、実験動物

の疲労及び苦痛をできるだけ小さくすること。

- (2) 輸送中の実験動物には必要に応じて適切な給餌及び給水を行うとともに、輸送に用いる車両等を換気等により適切な温度に維持すること。
- (3) 実験動物の生理、生態、習性等を考慮の上、適切に区分して輸送するとともに、輸送に用いる車両、容器等は、実験動物の健康及び安全を確保し並びに実験動物の逸走を防止するために必要な規模、構造等のものを選定すること。
- (4) 実験動物が保有する微生物、実験動物の汚物等により環境が汚染されることを防止するために必要な措置を講じること。

(人獣共通感染症に係る知識の習得等)

第 18 条 管理者等は、人獣共通感染症に関する十分な知識の習得及び情報の収集に努め、人獣共通感染症の発生時において必要な措置を迅速に講じることができるよう、公衆衛生機関等との連絡体制の整備に努めるものとする。

(教育訓練の実施)

第 19 条 管理者は、動物実験実施者及び飼養者に対し、動物実験等の実施並びに実験動物の飼養及び保管を適切に実施するために必要な次の各号に掲げる事項について、教育訓練を実施する。また、動物実験実施者等の資質向上を図るために必要な措置を講じなければならない。

- (1) 関連法令、条例、指針等及び本学の動物実験等に関する諸規則に関すること
 - (2) 動物実験等及び実験動物の取扱いに関すること
 - (3) 実験動物の飼養及び保管に関すること
 - (4) 安全確保、安全管理に関すること
 - (5) 施設等の利用に関すること
 - (6) その他、適切な動物実験等の実施に関すること
- 2 管理者は、教育訓練の実施日、教育内容、講師及び受講者名を記録し保存するものとする。

(指針等への適合性に関する自己点検・評価及び検証)

第 20 条 大学長は、動物実験等の実施に関する透明性を確保するため、定期的に、指針等への適合性に関し、自ら点検及び評価を実施するとともに、当該点検及び評価の結果について、学外者による検証を実施することに努

めなければならない。

(情報公開)

第 21 条 本学における動物実験等に関する情報を、毎年 1 回、年報の配付その他の適切な方法により公表するものとする。

附 則

この指針は、平成 2 年 6 月 2 6 日から適用される。

(平成 2 年 6 月 1 日から施行する)

附 則

この改正指針は、平成 9 年 8 月 1 日から施行する。

附 則

この改正指針は、平成 13 年 4 月 20 日から施行し、平成 13 年 4 月 1 日から適用する。

附 則

この改正指針は、平成 16 年 8 月 18 日から施行し、平成 16 年 8 月 18 日から適用する。

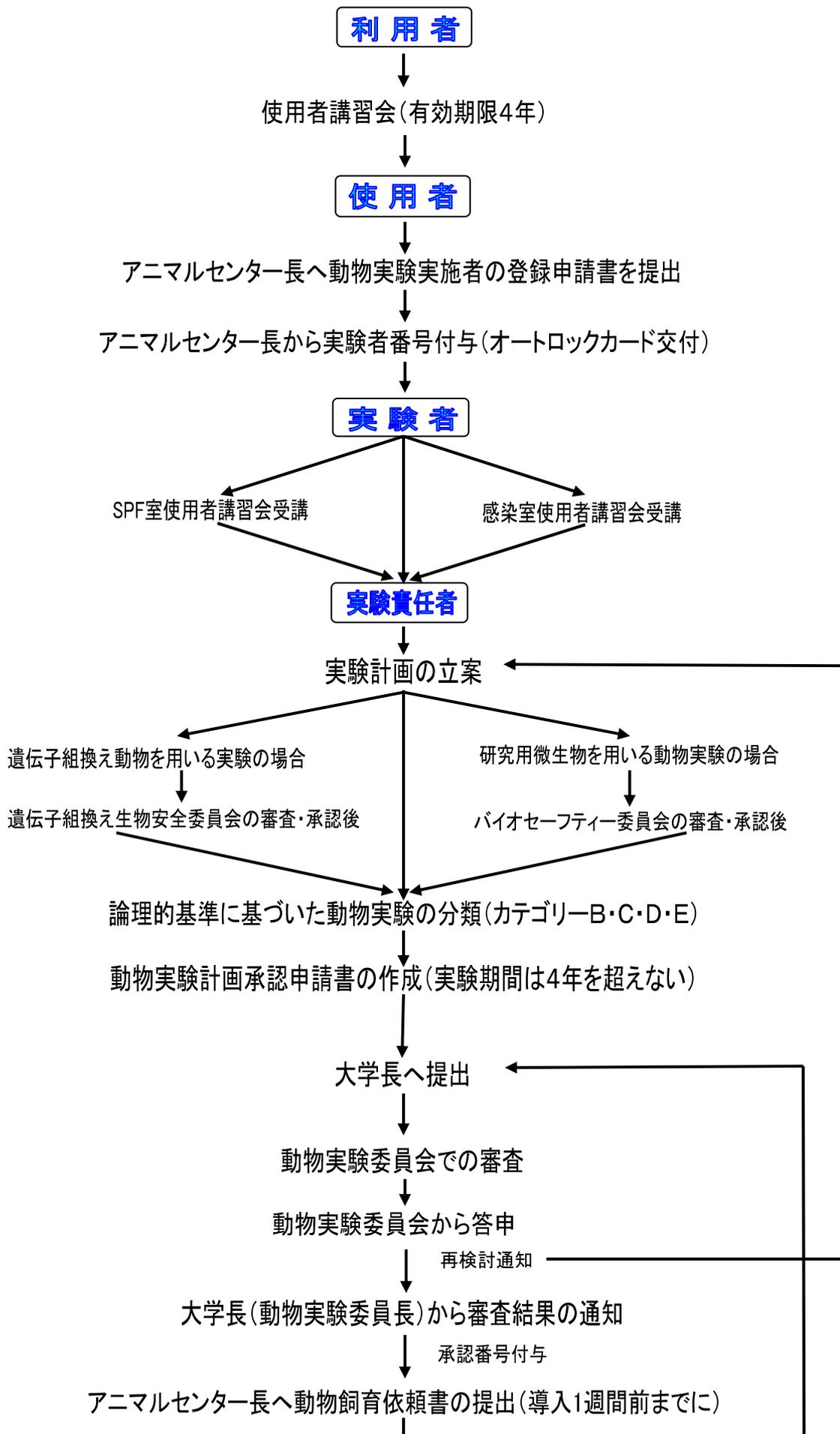
附 則

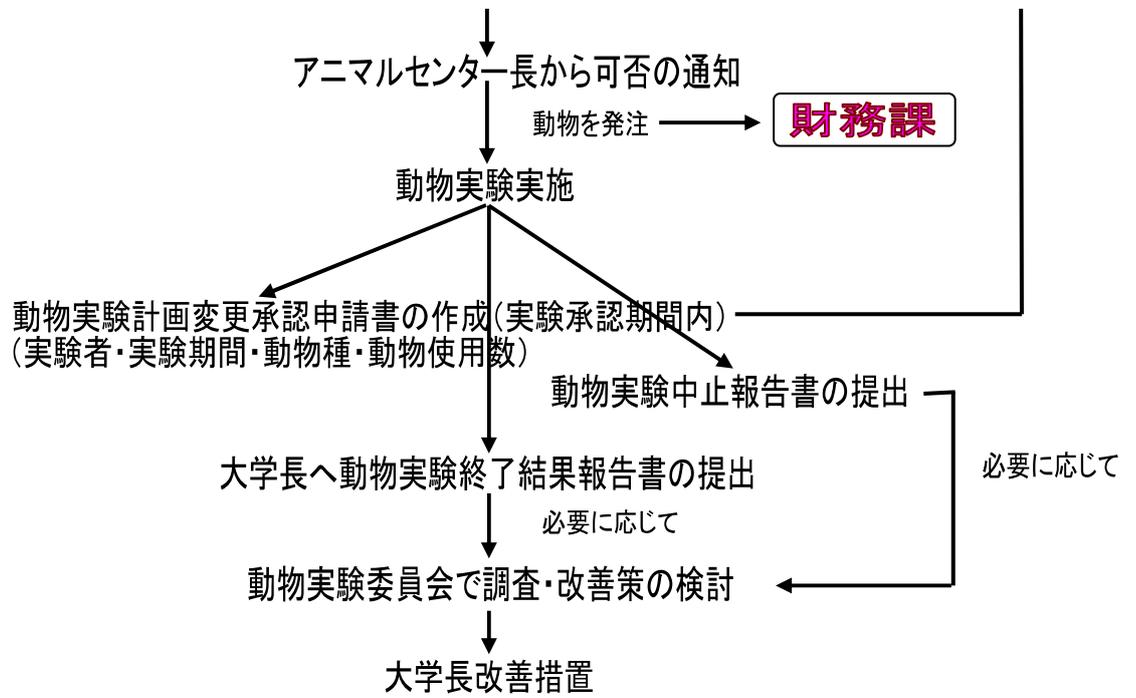
- 1 福岡歯科大学動物実験指針(平成 16 年 8 月 18 日施行)を福岡歯科大学・福岡医療短期大学動物実験規則に改正する。
- 2 この改正規則は、平成 17 年 3 月 15 日から施行し、平成 17 年 3 月 15 日から適用する。

附 則

- 1 福岡歯科大学アニマルセンター使用規則(平成 18 年 3 月 24 日施行)については、これを廃止する。
- 2 この改正規則は、平成 19 年 7 月 31 日から施行し、平成 19 年 7 月 31 日から適用する。

動物実験手順の概略図





動物実験委員会（平成26年4月1日～平成28年3月31日）

委員長（センター長）	日高 真純（分子機能制御学 教授）
副委員長（副長）	泉 利雄（歯科保存学 准教授）
委員	早川 浩（生 化 学 教授）
委員	永嶋 哲也（医療倫理学 教授）
委員	稲井 哲一朗（機能構造学 教授）
委員	石川 博之（矯正歯科学 教授）
委員	川野 庸一（眼 科 学 准教授）
委員	町田 弘幸（口腔保健学 准教授）
委員	徳本 正憲（内 科 学 准教授）
委員	今吉 理恵子（感染生物学 講師）
委員	八田 光世（分子機能制御学 講師）
委員	鍛冶屋 浩（細胞生理学 講師）
委員	力丸 哲也（短大教員 准教授）
	以 上 構成委員 13名

庶務係 和才 広輝（アニマルセンター管理事務 係長兼任）

アニマルセンター管理職員（平成26年4月1日現在）

センター長	日高 真純（分子機能制御学 教授）
センター副長	泉 利雄（歯科保存学 准教授）
事務職員（係長兼任）	和才 広輝
技能職員	山下 貴成
補助職員	松本 富子
補助職員	霜出 エイ子
補助職員	渋谷 由香
補助職員	吉廣 絹代（平成27年2月採用）
兼務職員	林 憲久（施設課技術職員）

アニマルセンター管理運営委員会（平成26年4月1日～平成28年3月31日）

委員長（センター長）	日高 真純（分子機能制御学 教授）
副委員長（副長）	泉 利雄（歯科保存学 准教授）
委員	早川 浩（生化学 教授）
委員	永嶋 哲也（医療倫理学 教授）
委員	稲井 哲一朗（機能構造学 教授）
委員	石川 博之（矯正歯科学 教授）
委員	川野 庸一（眼科学 准教授）
委員	町田 弘幸（口腔保健学 准教授）
委員	徳本 正憲（内科学 准教授）
委員	今吉 理恵子（感染生物学 講師）
委員	八田 光世（分子機能制御学 講師）
委員	鍛冶屋 浩（細胞生理学 講師）
委員	力丸 哲也（短大教員 准教授）
	以上 構成委員 13名

庶務係	和才 広輝（アニマルセンター管理事務 係長兼任）
-----	--------------------------

編集後記

平成 28 年度も、日高センター長の下、和才事務職員、山下職員、そして私という 26、27 年度と同じ体制で運営していくことになりました。今までのご協力大変有難うございました。この場を借りて御礼申し上げます。

さて、今年度が始まって直ぐに、本学が実験動物を導入している「九動」において、微生物モニタリングの結果 ICR マウスが肺パストツレラ陽性となり、「九動」からの動物供給が停止されるという事態となりました。幸い提携業者の日本クリアから動物供給のバックアップを受けて一応事無きを得ていますが、この原稿を書いている 10 月の時点でまだ復旧の見通しが立っていません。これは今まで無かったことで、病原細菌感染対策が十分行われているはずの施設でも細菌感染が起こり得るという、実験動物施設での感染対策の難しさを再認識致しました。

幸い今年度はアニマルセンター内での感染事例は生じておりませんが、今後の感染防止のために皆様をお願いしたいのは、やはり基本に忠実に、①センター搬入時の実験器具機材の消毒、②帽子、マスク、実験衣等の着用、③手指の洗浄・消毒、④各室でのスリッパ履き替え、⑤実験室の開放禁止、⑥動物に接触する際には手袋着用後、エタノール消毒を行う、⑦手袋の廃棄（各実験室のメディボックスに）の各項目を遵守して頂くことです。その他、基本的な感染防止の方策やアニマルセンターの利用手順については、アニマルセンターのホームページにありますので、ぜひ参照して下さい。

今後も特に問題なく堅調にアニマルセンターが運営され、利用者の皆様が今まで以上に より良くアニマルセンターをご利用いただけるよう、運営スタッフ一同努力していきたいと考えておりますので、皆様のご理解とご協力を切にお願い申し上げます。

（センター副長 泉 利雄）

福岡歯科大学アニマルセンター年報 3 4 号

平成 28 年 12 月発行

編集発行者 福岡歯科大学アニマルセンター 日高 真純

〒814-0193 福岡市早良区田村 2 丁目 15 番 1 号

TEL (092) 801-0411 (内線 161)

FAX (092) 801-4909